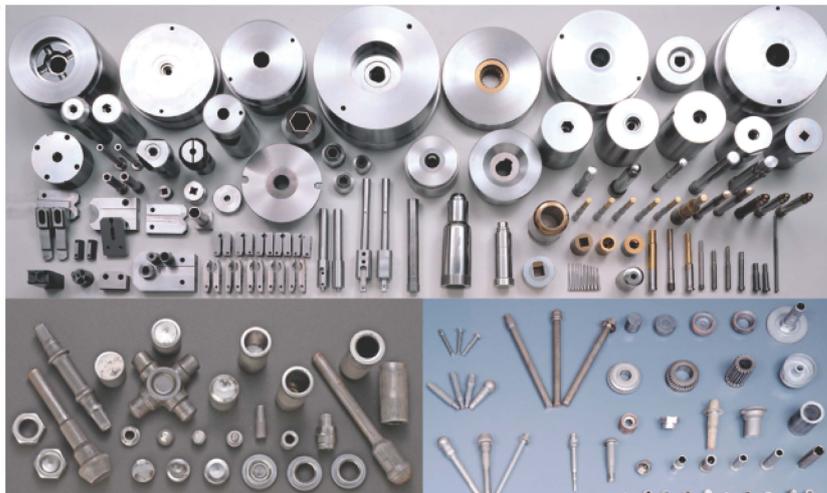


08/26 - 09/01

大阪ヘルスケアパビリオン
「リボンチャレンジ」



航空機用部品などに
使われる特殊材料用の
新鍛造用断熱金型を紹介



放電エネルギーを利用する「放電加工機」



同社の研究開発を支える技術者たち



鍛造用金型を使って製作された線香立て

創業以来、超硬合金の鍛造用金型の進展に貢献

1950年の創業以来、ハイテン工業株式会社は金型技術の進展に努めてきた研究開発型企業で、とりわけ強みとするのは創業当時から扱っていた超硬合金です。超硬合金で絞り金型を日本で初めて製造した企業でもあり、自動車用ホイールナットやスピンドルナットの量産に使用する冷間鍛造用超硬金型では国内トップシェアを誇っています。

長く冷間鍛造用金型で優位を保ってきた同社ですが、ニッケルやチタンといった難加工材を扱うために高温に強いニッケル基超々合金を用いた熱間鍛造用インサート金型を新たに開発しました。ところが金型自体が600℃、700℃以上の高温に耐えられても金型を固定するダイセットが高温に耐えられないと部品メーカーで冷やしているケースもあったことから、内部が700℃になっても外側は200℃程度までしか上がらない断熱金型を大阪府産業研究所と共同開発し、特許も取得しています。

現在開発中の900℃の高温に耐えられる鍛造技術を紹介

現在、同社ではさらに、これまでの鍛造金型にはなかった900℃の高温に耐えられる鍛造用断熱ダイセットと断熱金型の開発を大阪府産業研究所と取り組んでいるところで、今回の大阪・関西万博では、大阪府産業研究所の掲げる「少し先の未来生活を支える『緑の下(E・N・NO・SHI・TA)』ものづくり企業たち」のテーマのもと、この鍛造技術を訴求する予定です。

鍛造技術の特徴を、堺にちなんだ包丁と線香立てで訴求

実際の展示では、鍛造用断熱金型を使った一例として、堺にちなんで包丁と線香立てをサンプルとして展示し、一般の方に鍛造技術がどのようなものかをわかりやすく伝えるよう努めます。例えば、包丁の柄は鍛造の中空技術を使って中を空洞にしたものを展示。材料から削り出す切削と比較して、少ない材料で加工できる鍛造技術が環境に配慮した製造方法であることを紹介します。

企業概要

所在地 〒587-0022
堺市美原区平尾679
TEL 072-361-8110
設立年 1961年（創業は1950年）
資本金 1,200万円

公式サイト

さかしる



未来にも貢献できるよう、当社の成長につなげる機会に



代表取締役社長
佐伯 知哉 さん

大阪・関西万博で運航される「空飛ぶ車」が話題になっています。これからの未来にどのようなものが世の中に出てくるのか予測できませんが、当社も必ずそこに追随していく必要があります。まずは、当社の技術力を世界の人たちに認知していただいて、今後の成長につなげていきたい。そのために大阪・関西万博への出展を決めました。あわせて、社内で働いている社員たちは意外と当社の技術力の高さを認識していないようなので、万博に出展することで誇りを持ってほしいし、採用活動においても当社のアピールに活用したいと考えています。

事業内容

金型および周辺工具、機械工具の製造・販売

主な取引先（納入先）

航空機部品メーカー、自動車部品メーカー、建築部品メーカー

主な製品・サービス等

ナットホームダイス、パンチ、プレスダイス、3分割ダイス、超硬金型